

図書館だより 第30号

とやま駅南図書館
ぶらり



「とやま駅南^{えきみなみ}図書館」(愛称・ぶらり)は、これまでのとやま市民交流館図書サービスコーナーの2倍の広さになり、ビジネス関連図書、高校生向きの図書、雑誌、商用データベースを充実し、7月21日(祝)にオープンしました。

目次

特集 全国中核市・市立図書館の活動指標	2
とやま駅南 ^{えきみなみ} 図書館.....	4
音と映像資料の利用について	4
いちおしライブラリー 第18回 源氏物語を楽しむ	5
岩倉政治文庫の資料 4 「村長日記」	7
レファレンスあれこれ	8

特集 全国中核市・市立図書館の活動指標



1 登録率

(貸出登録者 ÷ 市の人口 × 100)

中核市の平均は 33.8%。

最高は豊田市の 62.5%。

富山市は、27.1%。中核市館中 25 位となっています。

自治体内の人口に対して何人が図書館に貸出しの利用の申し込みをしているかを示すものです。

2 市民 1 人当たりの貸出冊数

(個人貸出冊数 ÷ 市の人口)

中核市の平均は 4.3 冊。

最高は豊田市の 9.3 冊。

富山市は 4.5 冊で中核市館中 13 位となっています。

この指標は、1 年間に住民 1 人当たり何冊貸出されたかを示すものです。

3 実質貸出密度

(個人貸出冊数 ÷ 貸出登録者数)

中核市の平均は 14.7 冊。

最高は高知市 43.1 冊。

富山市は、16.7 冊。中核市館中 10 位となっています。

この指標は、年間に利用者 1 人当たり何冊貸し出されたかを示し、実質的な利用状況を測るものです。

登録者が少ない場合や、1 人当たりの貸出上限冊数が大きい場合は、この数値も高くなります。

(例：岡山市)

4 蔵書回転率

(個人貸出冊数 ÷ 蔵書数)

中核市の平均は 2.2 回。

最高は西宮市 3.6 回。

富山市は、2.1 回で中核市館中 19 位となっています。

この指標は、1 冊の蔵書が平均して、何回貸し出されたかを示すものです。新刊図書の購入冊数や開架図書の冊数に対し、書庫蔵書の割合によっても大きく左右されます。この数値が高いということは、利用される本が揃っているといえます。

5 市民 1 人当たりの蔵書冊数

(蔵書数 ÷ 市の人口)

中核市の平均は 2.0 冊。

最高は豊田市、高槻市 3.5 冊。

富山市は 2.1 冊で中核市館中 13 位となっています。

この指標は、自治体における図書館の力を示し、図書保障率とも呼ばれています。

6 市民 1 人当たりの図書購入費

(図書購入費 ÷ 市の人口)

中核市の平均は 134.7 円。

最高は高槻市 310.9 円。

富山市は 174.6 円で中核市館中 8 位となっています。

また、金沢市 148.4 円、

長野市 155.7 円となっています。

この指標は、1 年間に住民 1 人当たり何円の図書購入を行ったかを示すもので、自治体での投資状況を見るものです。

7 購入図書の平均単価

(図書購入費 ÷ 図書購入冊数)

中核市の平均は 1,710 円。

最高は奈良市の 3,159 円。

富山市は 1,459 円で中核市館中 21 位となっています。

この指標は、1 年間に購入した図書の 1 冊当たりの平均金額を示すもの。参考図書や専門書の単価は高く、入門書や娯楽的読み物の単価は安いので、平均単価を見るとその図書館の購入図書の傾向が伺えます。

(注)

1. 基礎数値は、『日本の図書館 2007』(日本図書館協会刊) 平成 19 年 4 月 1 日現在集計による。この数値をもとに指標化を行いました。なお、比較表の中で指標化ができない箇所に 印を付けました。
2. 貸出登録者は、富山市の場合は有効登録者の数値。この数値をもとに、登録率と実質貸出密度の指標化を行いました。
3. 人口密度の数値は、小数点以下を四捨五入しました。

中核市・市立図書館の活動指標比較表 (全国39都市)

No	中核市名	貸出上限冊数 (冊)	登録率 (%)	人口密度 (人)	市民1人当たり 貸出冊数 (冊)	実質貸出 密度(冊)	蔵書回転率 (回)	市民1人当たり 蔵書冊数 (冊)	市民1人当たり 図書購入費 (円)	購入図書 の 平均単価(円)
1	富山市	10	27.1	337	4.5	16.7	2.1	2.1	174.6	1,459
2	旭川市	10	54.2	480	6.5	11.9	2.3	2.8	95.2	
3	函館市	10	22.8	435	5.4	23.7	2.9	1.9	108.3	
4	青森市	8	31.2	381	3.6	11.6	1.7	2.1	60.8	
5	秋田市	5		365	2.7		1.5	1.8	66.6	
6	盛岡市	5	37.3	332	3.0	8.0	1.5	1.9	49.5	
7	いわき市	15		292	3.7		2.6	1.4	137.5	1,570
8	郡山市	5	42.6	443	4.3	10.2	1.8	2.4	150.8	1,706
9	宇都宮市	15	33.3	1,197	7.3	21.9	2.7	2.7	188.1	
10	川越市	5	46.8	3,005	4.2	9.0	2.0	2.1	124.5	2,353
11	船橋市	10	20.5	6,656	3.2	15.7	1.6	2.0	153.9	1,966
12	柏市	10	24.0	3,290	5.7	23.9	2.4	2.4	207.2	1,704
13	相模原市	6	36.4	2,089	4.3	11.7	2.5	1.7	114.9	1,600
14	横須賀市	10	47.6	4,281	3.4	7.1	1.8	1.8	162.1	1,952
15	長野市	10	16.0	513	4.0	25.3	1.9	2.2	155.7	1,399
16	金沢市	10	44.9	943	4.4	9.7	1.8	2.4	148.4	1,884
17	豊橋市	5	50.9	1,381	4.0	7.9	1.6	2.5	153.1	1,766
18	岡崎市	10	35.5	922	4.1	11.5	2.4	1.7	97.2	
19	豊田市	15	62.5	433	9.3	14.9	2.7	3.5	307.6	
20	岐阜市	10	36.8	2,036	3.6	9.7	2.8	1.3	76.6	1,762
21	東大阪市	8	29.7	7,992	3.4	11.4	2.5	1.4	82.6	
22	高槻市	10		3,371	7.6		2.2	3.5	310.9	1,745
23	奈良市	5	29.8	1,333	3.2	10.9	2.0	1.6	92.1	3,159
24	和歌山市	5	25.6	1,831	1.8	7.0	1.6	1.1	72.7	1,511
25	西宮市	15	27.2	4,562	7.0	25.8	3.6	1.9	97.3	1,581
26	姫路市	6	21.9	998	4.2	19.2	1.9	2.2	140.7	1,654
27	岡山市	無制限	18.3	862	5.7	31.3	2.7	2.1	147.1	1,488
28	倉敷市	20	52.8	1,326	5.8	11.1	2.3	2.6	175.1	1,404
29	福山市	10	33.3	894	5.5	16.6	3.1	1.8	163.0	1,536
30	下関市	10	30.2	405	3.8	12.7	2.0	1.9	148.3	1,612
31	高松市	15	51.7	1,125	6.0	11.5	2.9	2.1	269.3	
32	高知市	10	10.9	1,241	4.7	43.1	1.9	2.5	126.4	
33	松山市	5		1,198	3.3		2.7	1.2	98.1	1,435
34	久留米市	10	18.9	1,327	4.5	23.6	2.3	2.0	189.2	1,447
35	大分市	5	32.1	922	1.7	5.4	1.8	1.0	76.1	1,718
36	長崎市	10	21.9	1,120	2.3	10.5	1.6	1.5	31.7	
37	熊本市	6	27.5	2,492	2.8	10.3	2.1	1.4	110.7	1,367
38	宮崎市	5	35.6	620	2.4	6.7	1.9	1.2	112.2	1,688
39	鹿児島市	5	44.6	1,101	2.5	5.7	1.9	1.3	76.1	
平均値			33.8	1,655	4.3	14.7	2.2	2.0	134.7	1,710

とやま^{えき}駅南^{みなみ}図書館 愛称 ぶらり

7月21日(月・祝)にオープンしました！

富山駅前 CiC ビル3階にあった「とやま市民交流館 図書サービスコーナー」は同ビル4階に移設拡充し、「とやま^{えき}駅南^{みなみ}図書館(愛称:ぶらり)」として生まれ変わりました。

平成15年12月に開設してから、本館機能の一部を補完するため、図書・雑誌・新聞などの資料を提供するだけでなく、デジタル情報(インターネット上の情報・商用データベース・電子図書)を提供し、ビジネス支援サービスを行ってきました。富山駅前という公共交通機関の要である立地条件と、夜間9時までで閉館していることから、これまでも多くの市民に利用されていますが、より一層の充実を望む市民の声を受けて今回の開館となりました。

館内の広さはこれまでの2倍に、閲覧席も倍増し、

ゆったりと本を選ぶことができるようになりました。蔵書についても6,000冊から11,000冊となり、ビジネスマン向け図書、教養書、中高生向け図書の充実を図っています。また、中高生向けのファッション・音楽などの雑誌を新たに10誌加えましたので、市民交流館の学習室を利用している高校生の皆さんにも気軽に足を運んでほしいと思います。商用データベースについては、これまでの「日経テレコン21」のほか、「聞蔵ビジュアル」「ヨミダス文書館」など新たに8種増え、情報検索がより充実しました。

インターネット端末利用については、共同テーブルから個別テーブルとなり快適な空間の中でより利用しやすくなっています。

ご来館をお待ちしています。(館内奉仕係 北山)

音と映像資料の利用について 7月20日よりビデオ・DVD・CDなどの視聴覚資料が 図書館のどの窓口からでも貸出しができます！

これまで、本館と各地域館では視聴覚資料の貸出方式が異なっていたため、本館から地域館へ、地域館から本館への予約での取り寄せ、貸出ができませんでした。この度、全館のコンピュータシステム統合に伴い、データの登録や、貸出方式を統一する作業が完了いたしました。

今後は、本館・地域館・分館、全ての富山市立図書館の窓口での取り寄せ、貸出、返却が可能になります。ただし、自動車文庫は除きます。また、当館ホームページ上での蔵書の検索や、インターネット予約も利用ができます。各窓口には、目録を備えてありますのでご利用ください。(蛭川分館 清川)

- 貸出
- (1) 全ての窓口で貸出できます。
 - (2) 点数 3点まで
 - (3) 期間 1週間
 - (4) 対象 ビデオ・DVD・CD
カセット

- 返却
- (1) 全ての窓口で返却できます。
 - (2) 破損の恐れがあるので、ブックポストの返却は、ご遠慮ください。

サービス

- 予約
- (1) 全ての窓口およびインターネット受け付けます。
 - (2) どの窓口であっても、全所蔵館対象に予約することが出来ます。
 - (3) 点数 1人に3点まで

- 館内鑑賞
- (1) ビデオ、DVD、CD、カセット合わせて、1日2点まで
 - (2) 館内鑑賞用の資料は、所蔵館で鑑賞ください。

いちおしライブラリー 第18回 源氏物語を楽しむ

今年は「源氏物語」が、「紫式部日記」の寛弘5年（1008）の記事により、その存在が確認される時から数えて、ちょうど一千年にあたります。

長い時を経て、今尚人気の高い国民文学である源氏物語。しかし正直なところ、この物語は長編の上、千年前の言葉は、現代の私たちには理解し難く、読み通すのがやっかいな代物でもあります。つとに“桐壺源氏”などという慣用句も生まれていて、何度挑戦しても桐壺の巻どまり、長続きしなないとえにまできています。古今東西の研究書の数もまた膨大で、それがかかって源氏物語を一般読者から縁遠くさせている感もあります。

けれども、そもそもは小説なのです。無聊を慰めるぐらいの気楽さで物語を愉しんでこそ、作者紫式部も喜ぶのではないのでしょうか。

“源氏”を楽しむために、基本的なテキストの他、優れた現代語訳の数々、便利で行き届いた案内書、一般読者にも興味深い研究書、その他源氏物語関連のいちおし図書を紹介します。

<基本テキスト>

伝えられている写本を、現在行われている仮名、漢字字体に置き換え翻刻した、信頼できる活字テキストの代表2点。

『新古典文学大系 源氏物語 1～5』
(岩波書店 1996)

『新編日本古典文学全集 源氏物語 1～5』
(小学館 1998)

各巻ごとに物語の梗概と人物関係図、本文にあわせて詳しい脚注がついています。小学館版のほうには、現代語訳もついています。

<現代語訳>

多くの著名な作家達によって、これまでに、数々の「源氏物語」が生みだされました。新しい現代語訳が出る度に、この物語は多くの人々の関心を集めました。出版された年代順に主な作品を紹介します。

与謝野晶子
『新訳源氏物語』全4巻 (金尾文淵堂 1913)

谷崎潤一郎
『潤一郎訳源氏物語』全11巻 (中央公論社 1941)

村山リウ
『源氏物語』全3巻 (創元社 1961)

円地文子
『源氏物語』全10巻 (新潮社 1973)

田辺聖子
『新源氏物語』全5巻 (新潮社 1979)
『新源氏物語 霧ふかき宇治の恋』 (新潮社 1991)

橋本 治
『寮変 源氏物語』全14巻 (中央公論社 1993)

中井和子
『現代京ことば訳 源氏物語』全3巻
(大修館書店 1991)

瀬戸内 寂聴
『源氏物語』全10巻 (講談社 1998)

尾崎左永子
『新訳源氏物語』全4巻 (小学館 1998)

<入門・案内書>



『源氏物語の世界』
(岩波新書)
(日向一雅/著
岩波書店 2004)

著者は、「源氏物語は、恋の物語であると同時に、王権の物語、家の物語、あるいは風論の物語である」と述べています。人物や事件が複雑にからむ物語が、この4つの観点から読み解かれていきます。丁寧でわかりやすい解説を施した源氏物語の入門書。



『王朝の雅 源氏物語の世界』
(別冊太陽)
(鈴木日出男/監修・執筆
平凡社 2006)

源氏物語は、これまで繰り返し絵に描かれてきました。扇絵、屏風絵、画帖、絵巻など、表現媒体は様々ですが、これらはすべて源氏絵と呼ばれています。

その中から、五十四帖各々に対応する絵をカラー写真で紹介し、物語のあらすじや解説を付しています。どの巻からでも楽しめる源氏物語案内書。

<王朝風俗>

『服装から見た 源氏物語』

(近藤富枝/著 文化出版局 1982)

宮廷を舞台にした源氏物語は、登場人物の衣服も華麗です。服装には王朝人の高い美意識がこめられているのです。当時の服飾について詳しく解説し、イラストを交えて色や形を具体的に示しています。

『源氏の薫り』

(尾崎左永子/著 朝日選書 1992)

衣にたきしめる香り、紙にたきしめる香り、室内にくゆらす空薫物そらたきもの、仏前みょうごうの名香など、源氏物語の中に描かれたさまざまな香り。それらがかもす情趣も、源氏を味わう重要な要素です。物語の情景、心理描写にどのように作用しているのか、興味深い一冊。



『源氏物語と音楽』
(中川正美/著
和泉書院 2007)

源氏物語の中では音楽もまた重要な要素です。多くの楽器が奏でられ、舞楽が舞われます。紫式部がうちたてた独自の音楽観、思想が明らかにされます。



『光源氏が愛した
王朝ブランド品』
(河添房江/著
角川学芸出版 2008)

「唐物からもの」^{からもの}とよばれる陶磁器、ガラス、香料などは、王朝の舶来ブランド品でした。富と権威の象徴である品々が、物語の登場人物たちにどのように扱われたかで、地位や性格までもがわかるということです。

<絵巻>

『源氏物語絵巻』 (共同通信社 1996)

十一世紀末から十二世紀に藤原隆能、隆親によって描かれたと推測される、「国宝・源氏物語絵巻」。この原画を極めて忠実に復刻した木版画を、原色・原寸大で印刷した豪華本です。

<その他>

『輝く日の宮』 (丸谷オー/著 講談社 2003)

源氏物語の幻の一巻を題材に採った小説です。

主人公の女性国文学者は、「桐壺」と「帚木」の間には、もと「輝く日の宮」という巻が存在していたという学説を支持しています。彼女の恋愛や学会風刺などを織り交ぜながら、源氏物語の成立課程を解き明かしていくのですが、まるでミステリーでも読むような面白さです。紫式部が当時高価だった紙を無駄にしないため、どうやって原稿を推敲したかといった話も、なるほどと思わせられます。

(大沢野図書館・山崎)





「村長日記」が掲載された『中央公論』昭和15年11月号

昭和14年2月、「稲熱病」で文壇に登場以来、岩倉は作家として、順調な活動を開始しました。とくに、終戦前後までのおよそ10年間は、『新潮』『文学界』『中央公論』などの主要な雑誌に、ほぼ毎月のように、岩倉の小説や随筆・評論が掲載されています。このことは、いかに岩倉が当時の文壇で、注目を浴びる存在であったかを証明するものです。

なかでも昭和15年11月、『中央公論』に掲載された「村長日記」は、代表作のひとつといつてよいでしょう。この短編小説は、農村の再生に献身的に奔走する、南山根村長・阿久津氏の日記形式で語られます。耕地整理の補助金交付のため、なかなか理解を示してくれない県庁の担当者と、粘り強く折衝を行う場面に始まり、闇の中の怪物騒動、出稼ぎ問題、篤農家の村会議員との対立、といった事件がつぎつぎと、テンポよく描き出されていきます。

あるとき、水路の通る森の中に、夜半巨大な怪物が現れるという噂がたち、腕自慢の若者や、駐在の巡査が調査に向かいます。すると、現場にいかに怪物らしき姿が現れ、一度は全員が肝をつぶしてしまうのですが、怪物を捕らえてみたところ、じつは日照り続きのため、水田に引く水に困窮した実直な農家の青年が、水路を独り占めしたいがために、わざわざ細工をこしらえて企んだ芝居だったことが判明します。いかにも、ユーモラスな描写を得意とする岩倉らしい挿話ですが、ひるがえってみると、昭和という近現代に及んでも、怪物・幽霊といった、前時代的な怪現象にとらわれやすい、農村の現実を示しています。

後半には、無遠慮な物言いをする村会議員と村長のやり取りが登場します。この人物・小野田議員は生粋の百姓出身で、農家の現実に疎い役人や、技術論ばかりを述べる農業技師に対して、「百姓のことを知らないくせに」とばかり、ずけずけと批判をするため、「ガンバラさん」なる渾名がつけられ、煙たがられています。阿久津村長もいささか苦手としていた人物ですが、しかし口調はどうあれ、彼の理論には間違った部分がひとつもないことに気付いた村長は、正念場を迎えた村の営農について、小野田議員と腹を割って対話しよう決心します。その席で、肥料の工夫や土作り、日照の問題など、農家の実地に根ざした改善方法の数々を伝授され、彼の豊富な知識と探究心に驚嘆した村長は、その意見を取り入れ、彼を村の智慧袋として遇するまでに至るのです。

ところで、主人公の阿久津村長には、実在のモデルが存在します。その人物とは、富山県南山見村（現南砺市）の小橋文郎村長であり、岩倉の言葉によれば、「その人の献身的な働きぶりに感じ入ったのが、これを書く動機だった」ということです。続けて「しかし、もちろんこれは私の創作であり、実在の村長の紹介ではない」と述べていますが、小説に描かれているように、実際に小橋村長はたびたび富山県庁を訪れることがあったようで、その人物像には多くが投影されていると思われます。当時富山県庁に勤務され、小橋村長のありし日の姿を知る八尾正治氏は、「モデルになった実在の人物、南山見村長小橋文郎のイメージは、小説の通りである」と回想されています。（館内奉仕係 舟山）

レファレンスあれこれ

Q . 八尾にあった丸山焼について知りたい。

A . 『八尾町史』(八尾町役場 1977)の「町人の文化丸山焼」には、「文政十二年(一八二九)の頃、越中国婦負郡丸山村の甚左衛門が開窯したものである」の記述があり、『富山大百科事典 上巻』(北日本新聞社 1994)には、「越中丸山焼」の項目に「婦負郡杉原村丸山(現八尾町)で営業した陶磁窯」とある。

『杉原地区と文化』(八尾町杉原地区文化財保存顕彰会 1956)中の「丸山焼」の項は、杉原村居村の山田兵庫老の稿を転載したものである。創窯から終窯に関する記述と窯元たちの略系図がある。創窯の時期については、文政12年(1829)が有力と注記にあり。明治27年に終窯となっている。丸山焼の祖：甚左衛門や窯の盛衰に関する詳細な記述がある。

『越中の焼きもの(富山文庫)』(巧玄出版 1974)の巻頭カラー図版の中に、「越中丸山焼 色絵牡丹文小鉢」がある。「江戸時代の多様な展開」の項には、染付高杯や香炉、窯跡碑の写真と共に「丸山焼系の窯 越中丸山焼」が収録されている。

『私たちが見出した八尾町に遺したい文化財候補者たち』(八尾町教育委員会 1995)、『文化誌日本 富山県』(講談社 1987)には、丸山焼数点の写真と簡単な解説がある。

なお、県立図書館に、1928年頃に杉原村役場が記録した『丸山焼沿革並出品目録』(10丁 25cm)や1935年に富山市立図書館が記録した『陶器丸山焼鑑賞会出品目録』(7p 26cm) 1975年に富山市郷土博物館が編集した『越中丸山焼展』(4p 26cm)などの資料を所蔵している。これらの記録や編集物は、当時展覧会に出品された丸山焼の種類や出自がわかる貴重な資料となっている。

(八尾図書館ほんの森 山田)

Q . 八尾 城ヶ山公園にある高浜虚子の句碑は、以前あった所から現在の場所に移設していると思われるが、それは何時頃の事が知りたい。

A . 「提^{ちようちん}灯に落花の風の見ゆる哉」全国で最も古い「虚子の句碑」と言われており、虚子の生誕地である松山市在住の方からの問い合わせであった。

まず、郷土文学碑に関する資料を調査した。『富山の文学碑』(森清松 1990)は、県内762基を解説と写真で紹介した資料である。八尾地域では34基を取り上げ、虚子の句碑も紹介しているが、移設について知ることはできなかった。『拓本で訪ねた八尾の文学碑』(八尾町婦人ボランティア講座 1991)は、貴重な写真を数多く掲載している資料で、その筆頭に虚子の句碑を挙げている。見開き2ページで紹介し、句碑の写真の横には「平成2年7月1日に建立された位置から見やすい所へ移設された句碑」と解説がつけられていた。

次に、八尾に関する資料を調査した。『八尾町史 続』(1973)の「観光」-城ヶ山公園-の項や「交通・運輸・通信」-句集 二百十日- -俳誌 辛夷-の項では、八尾と高浜虚子の関係や句碑の誕生について知ることができる。大正13年には俳誌「ホトトギス」の発行者である高浜虚子が八尾に来町、句碑を訪れていることがわかる。『八尾城ヶ山』(八尾町婦人ボランティア講座 1982)は、詳しい記述のほか公園略図があり、園内の文学碑、記念碑、銅像などの位置を知ることができるが、移設の記述は見あたらない。

質問者には、句碑の移設に関する記述があった図書を含め調査経過を説明した。

(八尾図書館ほんの森 富川)

平成20年7月21日富山市立図書館 編集 発行
富山市丸の内1丁目4-50 TEL076-432-7272
HP アドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp>
E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp